

2025年7月25日 1,300部発行

■ 神学教育後援会募金事務担当

山崎道子（豊中教会教師） TEL：06-6852-3078 FAX：06-6855-1081
〒560-0024 豊中市末広町1-2-28 日本キリスト教団豊中教会

■ 分担金事務担当

尾島信之（南大阪教会教師） TEL：06-6622-2011 FAX：06-6622-2048
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-30-5 日本キリスト教団南大阪教会



しんあい子ども食堂について

臂 奈津枝（澁川教会）

しんあい子ども食堂は澁川教会が運営していた元信愛幼稚園園舎を地域へ向けて再活用する取り組みとして2018年10月から始まりました。現在では教会員が中心となったボランティア団体信愛えんがわカフェが運営主体となり、地域住民のボランティアが多く参加しています。毎月月末に1回、手作り弁当140食程度と食料品等の配布を行っています。また毎週月曜日に経済的に厳しい世帯のお子さん方を対象にした夕食付きの無償の学習支援や平日昼間にはパソコンクラブなども行い、地域に親しまれるようになりました。幼稚園がある時には地域との繋がりがありましたが、幼稚園閉園後にはこうした繋がりが閉ざされてしまい、地域住民からは教会との心理的距離が遠くなったとの声を着任当初頂くことがありました。かつてのような幼稚園運営は難しいものの、教会員や地域住民のボランティアさんが「身の丈にあった」活動を小さいながらも行うことで、神さまから与えられた園舎の再活用が叶っていることを感謝いたします。澁川教会は障害者支援施設「三愛荘」や児童養護施設「子持山学園」という二つの社

会福祉法人の設立に関わる教会として、地域に対する福祉の心が教会員の中に育っていたことも「子ども食堂」の運営に大きく関係しているかと思います。エピソードを二つご紹介したいと思います。①「子ども食堂」は企業等からの寄付金を頂くことがあります。そうした寄付金で群馬県産の桃を配布したところ、子どもに生の果実としての「桃」を食べさせたことがない保護者が多数あり、「桃」が高いために購入をためらい、食べさせることが難しかったとの事。剥き方をお母さんに説明して、子どもがお家で食べたらとても美味しかったとの事で、こういった体験が少しでも子どもの成長に役立てばと思いました。②家に自室がなく勉強机が無い中学3年生が高校受験のために無償学習支援を利用されました。家では居間で勉強するために、沢山いる兄弟の中では勉強に集中することが出来なかったとの事。私立高では経済的に進学を諦めざるを得ず、ボランティアの学習指導の方も協力し頑張って公立校に合格し、喜んで登校しています。こうした事例は数限りなくあり、代表である私のところには沢山の相談が

直接、または自治体や社会福祉協議会を通してあります。様々な連携を通して教会だけでは出来なかった支援が、しかし教会という場があり、牧師がいるからこそ不十分ながら実践できているのかもしれませんが。「場」の提供として教会が機能し、地域のHUBとして存在するとき、主イエスのお姿がそこに浮か

び上がる気がします。海老名弾正先生は「渋川は伝道不毛の地」と言われ、まさにその通りと思いたいような時も牧師として経験しますが、今一度、この地域に神さまが教会を建てて下さったことに感謝し、小さい取り組みを続けていきたいと願います。



きょうも自由席は子どもでいっぱい

月下 星志（広島東部教会）

私が暮らす広島は、スポーツが盛んな地域です。民間会社が調べた都道府県別のスポーツファンの割合で、広島県が唯一の6割越え（66%）で全国1位という調査結果がでました。ちなみに2位は、北海道日本ハムの新本拠地エスコンフィールドが影響したと考えられる北海道でした（株式会社バネクス調べ）。広島にある野球、サッカー、バスケの3つのプロチームの昨季のリーグ観客合計数は、約271万人。これは、広島県の人口270万人を超える数字です。人口の違いが割合に影響しているものの、広島県はスポーツ文化が深く定着した地域であるといえると思います。

古くから、高校野球やサッカーが盛んであった地域ですが、広島におけるスポーツ文化は、プロ野球広島カープの影響が大きいと言えると思います。

「優勝してくれてありがとう。亡くなった家族の遺影を掲げているひとがいる。たくさんいる。選手たちに手を合わせて拝んでいるひともある。たくさんいる。」（重松清『赤ヘル1975』より）

上記の小説の中にあるように、被爆後、誕生した広島カープは復興のシンボルであり、勝敗に関係なく、その存在が市民の喜びでした。財政が逼迫した時は、樽募金を実施する

など、設立当初から市民とのつながりの強い球団でありました。

しかし、90年代以降はチーム成績と比例するように、観客動員数は伸び悩みました。成績も観客動員も暗黒時代と呼ばれた時代に、球団を支えたのは、地元企業や町内会、そして、お金はないけど時間はある子どもたちであったと思います。

カープには、ジュニアメンバーズクラブという子どものファンクラブがあります。小中学生は、年会費3,500円で自由席のフリーパスを手に入れることが出来ます。（チケット完売の場合は、人数制限があります。）暗黒時代も、球場では、ほぼ「タダ見」の子どもたちが走り回っていました。現在、ほとんどの球場で、全席指定席化が進みましたが、カープの本拠地マツダスタジアムは、内野2階席に自由席を設定しています。

2016年の優勝前後から、世代を超えて人気は高まり、チケットは常に完売、プレミア化しました。フリーパスをなくし、全席指定にした方が利益も出ますし、座席が確保されるので客の満足度も上がります。それでも、カープは自由席を残し続けました。一時のブームに影響されることなく、大切にすることが、ぶれなかったのだと思います。

最近、ブームが落ち着き、マツダスタジアムは空席が目立つようになりました。しかし、チケット完売時に人数制限されていたジュニアメンバーズの子どもたちで、自由席はいっぱいになっています。

教会も付帯施設も変化が求められる時、ついつい経済的なものに気を取られてしまいます。何を大切にすべきか…。満員の自由席を見ながら考えさせられる今日この頃です。

同志社大学神学部報告

神学部長 村山 盛葦

神学部のために毎日頃ご厚情をたまわり感謝いたします。同信伝道会の皆様からの物心両面にわたるお支えを通して、神学教育・研究にたずさわるスタッフ一同、神様の業に仕えることの大切さと意義を実感しております。

2025年度、学部長を拝命し右も左も分からない状況で周りのスタッフに支えられながら日々の業務に取り組んでおります。今年度は専任教員として杉田俊介先生（組織神学）をお迎えしました。先生の専門はキリスト教思想、日本のキリスト教思想家（滝沢克己、柏木義円他）の研究で、諸宗教の神学、キリスト教の文脈化、宗教と国家の関係などのテーマを中心に論考を行っておられます。また、日本基督教団の教師として牧会経験も豊かで、これからの神学教育・研究、そして、同信伝道会と協同して牧師養成にもご尽力いただける方であると期待しております（杉田先生の自己紹介は「同神期報」第101号2025年3月20日発行をご参照ください）。

今年度の入学者は、学部63名（65名）、3年次転入・編入2名（1名）、大学院前期課程12名（7名）、大学院後期課程2名（2名）でした。（ ）は昨年度実績ですが、ほぼ同じ数字です。ただ、大学院前期課程が少し増えたことはうれしいことでした。この中から

少しでも多くの方が牧会へ巣立っていくことを願っています。先立って行われた2月の一般選抜入学試験では神学部に300名の志願者が臨み、昨年度284名より若干増加いたしました。このことは各方面で地道な神学部の紹介や説明を行ったことや、教会現場のご理解やご協力、そして、現代社会における宗教の役割が少しずつ認識された結果であると推察しています。牧会者養成に関して近年芳しくない状況が続いています。牧会へ巣立った新卒者は、2024年度2名、2023年度2名、2022年度1名で、たいへん申し訳なく忸怩たる思いを禁じ得ません。ただ、2021年度は8名、2020年度5名、2018年度5名とそれなりの人数を牧会へ送り出すことができています。牧会者養成の課題については、神学研究科（大学院）のFD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会で共有しながら方策を協議しています。当委員会では大学の教育の質を改善・向上させるための取り組みを行っています。本年度も教会現場と緊密に連携しながら牧会者養成に力を注いでいくことができればと思っています。

「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」として2019年度より展開してきた「地の塩」プロジェクトは昨年度無事に終了しました。

本年度からは神学部プロジェクトとして「宗教と社会福祉」（春学期）、「宗教と社会活動」（秋学期）など「地の塩」プロジェクトを引き続き展開中です。これらの科目では止揚学園、きょうと夜回りの会、愛隣デイサービスセンター、バザールカフェでのフィールドワークを行っています。それに加えて東九条合同フィールド・ワーク（於 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）も定期的に開催しています。これらの取り組みを通して学生たちは新しい出会いや今までにない貴重な経験をしています。固定概念や偏見、日常の不安などから解放され、心の通った人と人の生きた交流が行われています。フィールドワーク参加した学生たちは、その顔つきや発言内容が以前にくらべて内実をともなった、借り物ではないオリジナルなメッセージを帯びてきます。フィールドワークを中心にした学びは、ChatGPT（人工知能）では学ぶことができない知恵や直感力（感性）を磨く機会となっているのではないかと思います。多様化し、真偽を見極めることが難しい現代の情報社会において、ナマの人間同士のガチな出会いを通してでなければ得られないホンモノの

実存を彼ら彼女らに与えているのではないのでしょうか。このようなフィールドワークは、これから人生を切り開いていく青年たちに確固たる足場（軸）を築くことにも寄与すると期待しています。これはキリスト信仰についても当てはまることでしょう。なお、2024年度学部卒業生の進路先は、約40名が一般就職、13名が大学院進学、そのうち同志社大学神学研究科は8名でした。

本年は同志社大学創立150年記念の年です。さまざまな行事やイベントがすでに行われ、また計画されています。キリスト教主義を堅持し、その礎となる神学部の働きを、とくに牧師養成という核となる使命を果たしていくことができるように鋭意努力していきたいと思えます。新島襄がその生涯をかけて産みだした同志社英学校が彼の遺志を継ぐ者たちによって大学設立へと至り、現在まで歴史を刻み続けてきました。先人、諸先輩たちの苦心と努力、熱意に敬意を払いつつも、歴史の主である神様の「見えざる手」によって導かれて来た150年に深く感謝し、次の世代に確かに継承できるように願っています。

第4回代議員会期・第4回拡大常任委員会報告

書記 尾島 信之（南大阪教会）

6月30日（月）天満教会で拡大常任委員会を対面、配信併用で開催いたしました。三役常任委員、四部門委員長、北海道、東北、関東、東京、中部、京都、大阪、兵庫、中国、四国、九州・沖縄の全国11地区の代表者等計23名による会議を持ちました。

各地区・神学部、四部門活動、会衆主義教会研究会の各報告、そして、8月開催予定神

学協議会の準備と「天上の友第5編」編集のそれぞれ進捗状況が分かち合われました。

「コロナ禍」から必要に迫られて、配信による参加を併用させていただいていますが、今回はわずか2名がZoomを使われ、後の方々は天満教会まで出席して下さいました。私たちは会うことが許されない時期に遠隔会議の機動性を手に入れましたが、今回改めて、

時間をかけて会いに来て、食事をいただきながら会議で出された話題を深め、よりじっくりと事柄に向き合う時を持つことが出来た喜びを感じさせられました。

今年は2年に一度の神学協議会が開催されます。どうぞ全国から京都へお越しいただき、出会うことで得られる豊かさを享受していただけると願います。

人事委員会報告

委員長 菅根 信彦

去る6月30日（月）天満教会にて開催された第4回代議員会期・第4回拡大常任委員会後、午後4時30分より地区「合同」人事委員会が行われました。翌日の正午まで協議が続けられました。北海、東北、関東、東京、中部、京都、大阪、兵庫、中国、四国、九州・沖縄の11地区の委員と神学部・人事委員合わせて24名（ズーム出席を含めて）が集まりました。関西を中心として構成される人事委員会は毎月1回のペースで、天満教会を会場に開催されています。また、今回のような地区「合同」人事委員会は6月と11月に1泊2日で招集され協議を重ねてきています。毎回「教師を求める教会」「任地を求める教師」のリストをもとに協議を行い、諸教会・伝道所からの様々な要望と教師からの希望や事情を考慮して、両者を繋いでいく交渉を重ねています。ここ数年では年間30件前後の異動に携わっています。今年度も既に20件ほどの教会から依頼が届いています。

大きな課題としては、コロナ禍以後より顕著に現れた諸教会の教勢並びに財政の低下です。教師謝儀が十分に提示できない教会が増

えていることです。また、教会付帯事業である幼稚園・保育園の厳しい運営状況があります。さらに、各教区の教師謝儀保障制度の維持が難しくなってきた現状があります。このような状況を考慮しつつ、謝儀を巡る調整、兼任兼牧の可能性、任期制の導入の必要性など検討すべき直近の課題と取り組みながら人事委員会の働きが続けられています。宣教困難な地域では、既に一人の教師で3つの教会を兼任しているケースがあります。また、都市部においても一教会で一人の教師を支えるということが難しくなってきた現状があります。その中で、教区や地区を越えた、様々な形での各個教会・伝道所間の宣教協力が始まっています。同信伝道会においても、会衆主義教会研究会と連携して、持続可能な招聘制度の在り方、教師養成の在り方などの対応策を早急に考えていく必要に迫られています。今度の神学協議会はこのような課題に取り組む契機になればと願っています。引き続き、人事委員会の働きを祈りをもってお支えくださいますようお願いいたします。

財務委員会報告

委員長 平山 正道

全国同信伝道会神学教育後援会のために、いつも温かいお祈りとご協力をいただき、ありがとうございます。

財務委員会は皆様のお捧げくださった献金を原資に、神学部の協力のもと長年にわたり「神学生奨学金」と「外国人留学生奨学金」を募集し支給してきました。また、牧会現場に赴こうとする新卒者には「赴任時奨学金」を予餞会時に贈ってきました。さらに一昨年度より、既にお知らせしたとおり「派遣神学生教育支援金」制度を新たに設け、受け入れ教会の宣教活動を支えることも視野にしつつ、派遣神学生の皆さんを支援しています。

これらに加えて、在学中に家庭の経済状況が急変して勉学の継続が困難になった学生を支援できないかどうか神学部から打診があり、委員会で検討した結果、緊急を要することでもあったため、わたしたちに可能な限りの支

援をさせていただきました。2年ほど前のことです。これらの事業についての詳細は、別頁会計報告をご覧ください。

また、昨年「神学校日」に合わせて、信徒の財務委員が関西地区の教会を訪問して、当会の活動の紹介と献金への呼びかけをさせていただき活動も再開しています。昨秋は、天満教会と西宮教会にお邪魔して尊いご献金をお捧げいただきました。感謝いたします。今年も、この訪問を計画しています。お世話になります。受け入れをよろしく願います。

難しい時代の中で、会員の高齢化が進み、関係教会も力を落としています。だからこそ、当会の使命は重要度を増していると思います。どうぞ引き続き、全国同信伝道会神学教育後援会の働きへのご理解とご支援を賜りますように、心からお願い申し上げます。

ネットワーク委員会報告

委員長 新井 純

2025年度は神学協議会開催年にあたるため準備を進めています。今年には同志社創立150周年を迎える年でもあり、小原学長に記念講演をしていただく予定です。また、協議会終了後には校祖である新島襄先生ゆかりの場所を巡るキャンパスツアーも企画されています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。開催は8月25～26日、会場は同志社大学寒梅館です。

3月7日には京都で予餞会を開催いたしました。3名の方が新たに牧会に立たれました。お働きの上に主の導きと祝福を祈ります。

付帯施設のある教会での牧会や施設運営についての学び、研修については、神学協議会後に続けて開催することを模索しましたが、都合により日を改めて企画することといたしました。教師養成部門とも調整しつつ今年度内開催に向けて準備いたします。

教職養成部門委員会報告

委員長 栗原 宏介

いつも教職養成の働きのために祈りお支えくださってありがとうございます。

今年も「牧会者準備セミナー」を開催いたしました。2025年2月18～20日、同志社大学の神学館を会場として開催。神学部と同信伝道会（教職養成部門）の共催として15年以上続いているこのセミナーは牧会を志す学生と牧会経験3年目までの方々を対象としています。今回は8名（学生3名、教職4名、既卒1名）の参加者が与えられ、スタッフ・講師を含めると21名での開催となりました。部分参加の方々も多く、参加者がすべて揃うことがなかったことは残念でしたが、それでも開催でき、出会いの機会が与えられたことは本当に良かったと思います。開会礼拝を関谷直人先生が担当してくださり、神学講演は「聖書のことばとの出会い—聖書翻訳を通して学んだこと—」とのタイトルで石川立先生が担当してくださいました。主題講演は尾島信之先生を講師として『『牧師』という生き方をする』というタイトルで行われました。リフレッシュセミナーは今井牧夫先生（講演題：

「牧師の人生と信仰の設計—実践神学の課題—」と加藤俊英先生（講演題：「教会合同と『天皇制国家』—1925年から1941年を中心として—」）が担当してくださいました。閉会礼拝は菅根信彦先生によって執り行われました。各種の講演のほかに参加者によるワークショップの時間も設けて、近況を聞き合い、またそれぞれが抱える課題や思いといったものを共有いたしました。ともすると孤独に陥りやすい牧会現場での働きの根本的な課題も見出しつつ、こうして話を聞き合える同労の友がいることは恵まれたことだと気づかされました。このセミナーの実施のために多くの方々からお支えいただき、またお祈りいただきましたことをこの場を借りて感謝いたします。

現在、教職養成部門では秋季教師検定試験対策講座や神学生受入教会と同志社大学神学部との懇談会の実施に向けて準備をしています。また次回の牧会者準備セミナーの準備にも取り掛かっています。今後ともお祈りとお支えのほどよろしくお願いいたします。

会衆主義教会研究会報告

座長 後宮 敬爾

I 組織

委員：後宮敬爾（座長）、新井 純、
上島一高、尾島信之、小西 望、
菅根信彦、高田 大、橘 秀紀、

原 牧人、藤浪敦子、山崎道子、
松崎 豊、関谷直人、三輪地塩

II 研究会開催日

2024年1月29日（月）

於 同志社大学・ハイブリッド
2024年6月3日(月)

於 同志社大学・ハイブリッド
2024年10月7日(月)

於 同志社大学・ハイブリッド
2025年2月17日(月)

於 同志社大学・ハイブリッド
2025年5月12日(月)

於 同志社大学・ハイブリッド

Ⅲ 活動内容

1 『天上の友』第5編発行準備について
『天上の友』第5編発行のための準備とサポートを行った。

2 情勢分析

今期の活動を通し、各部門および諸教会の状況報告に毎回丁寧に触れる中で、コロナ禍以降、教会の置かれている状況が厳しさを増していることを痛感せざるを得なかった。これは教会だけでなく、その附属施設やキリスト教主義学校においても同様であり、運営の厳しさは増すばかりである。

このような状況にもかかわらず、日本基督教団は停滞状態にあり、新たな宣教方策を見出す努力すら感じられないように見受けられる。現状を鑑みるに、これ

からの教会のあり方について深く研究していくことが不可欠であるとの認識を強めている。

3 実施事項

(1) 同信伝道会 HP を開設し、その運営について

(2) 伝道献身者の奨励事業の検討

(3) 同信伝道会メンバーシップの検討

(4) 『基督教世界』誌の再発行可能性の検討

(5) 『招聘ハンドブック増補改訂版』を2023年8月に出版した

Ⅳ 展望と課題

この数年、若い伝道献身者を産み出すことが困難になっている傾向は顕著であり、その当然の帰結として、教会へ赴任できる教師の数が不足しつつある。この傾向は将来さらに顕著になると予想され、従来大切にされてきた「1教会1牧師」という姿を維持することは困難になるだろう。

同時に各教会も教勢財政ともに縮小傾向にあるため、従来の枠組みを打ち破る構想が不可欠である。次期の会衆主義教会研究会では、この研究と具体的な方策の提案を主要な課題としたい。

❀ 地区報告 ❀

■ 北海道地区

杉岡ひとみ(千歳栄光教会)

2025年5月7日(水)、午後4時より北海道同信伝道会が札幌北光教会を会場にして行われました。毎回集まるたびに親しみ、やわらぎを感じるこの同信会のつながりはとても大切な機会となっています。

今年度は札幌北部教会に島田直教師、岩内教会に葛井義顕教師をお迎えすることができ

ました。また、金澤友幸教師が岩内教会から苦小牧弥生教会に転任されました。同信会ではそれぞれの近況報告、また地区委員選出について語りあいました。この度も Google フォームを用いて投票を行い、地区委員として韓守賢教師が選出されました。代議員は引き続き杉岡ひとみ教師が務めます。

広い北海道ですが、今後も連絡をとりあい、顔を合わせる機会を大切にしながら、この同

信伝道会のつながりを豊かなものにしていただけたらと願っています。

■ 東北地区

小林 休（鳴子教会）

東北地区の報告が滞っていましたので、昨年からの動きをお知らせします。昨年度は伊藤義経先生が蒲田教会から水沢教会に赴任され、山田有信先生が大阪淡路教会より常磐教会にそれぞれ赴任されました。また山田有信先生のお連れ合いの戸田睦子さんが白水のそみ保育園の園長として赴任されました。今年度は無牧だった会津若松教会に太田八幡教会より川上純平先生が、同じく無牧だった仙台東教会に岡山教会から佐々木玲哉先生が赴任されました。無牧であるということは試練である一方、教会を振り返る時でもあり、同じ地区の信徒、先生方にも支えていただきつながりが生まれる恵みの時でした。涌谷教会は教会の裁判も保育園の裁判も終結しましたが、退任した牧師が保育園の理事長、施設長としてとどまっているために牧師を招聘できない状態が続いております。また、新たな課題も生まれ試練が続いております。どうか涌谷教会のことを覚えてお祈りいただければ幸いです。

■ 関東地区

川上 盾（前橋教会）

関東地区は新潟・群馬・栃木・茨城・埼玉・長野の各地区と、山梨・神奈川（隠退教師）が受け持ちのエリアです。41人の教師が、37の教会・5つの学校、1つの病院で宣教に励んでいます（他に12名の隠退教師）。大変広いエリアなので、顔を合わせて話し合う機会がなかなか持てません。情報の共有も容易ではありません。近年、無牧の教会で牧師を招聘できない教会が増えてきています。牧師数の減少、教会財政の逼迫がその原因であり、それは関東地区だけの課題ではないでしょう。代務で一時しのぎをするのではなく、兼牧や共同牧会、教会合同といったことも視野に入

れながら、それぞれの状況に対処しているのが現実です。コロナ状況の間途絶えていた研修会でしたが、2024年6月熊谷において、東北・関東・東京合同で久々の東日本同信会開催しました。関東地区でもまず交流してそれぞれの地区の状況・課題を共有するための交流会を、2026年2月に開催予定です。

■ 東京地区

原 牧人（豊沢教会）

東京同信伝道会は、約60教会の関係教会をはじめ、教務教師や隠退された方々などを含め、100余名の教師たちが在籍され、年度初めに開催される総会と春の研修会、秋の研修会、礼拝交流（交換講壇）などを主な活動としています。また総会で選任された5名の委員を中心に、人事の件なども含めて携わっています。

今年度は4月21日に2025年度の総会を開催。また総会の前に春の研修会を実施、4月から同志社大学神学部部長に就任された村山盛葦先生をお招きし、「パウロの風貌」と題して、講演をしていただきました。普段とは異なる角度からパウロの思想や人物像に触れることができ、多くの示唆が与えられた講演でありました。教職・信徒を合わせて50名近い方々が出席されました。

昨年度もいくつかの教会、学校で教職者の異動がありましたが、それにつきましては「教師異動報告」でご確認ください。

■ 中部・東海地区

吉澤 永（愛知教会）

中部同信伝道会では、歓迎会や送別会の機会を設けて、フェローシップの働きを担っています。24年度は、中部同信伝道会で15年間共に歩んできた名古屋東教会の馬場詩織教師を京北教会に送り出しました。

自主・自由・独立・連帯の精神をもって歩む群れですので、それぞれに横の繋がりを持ちながらも、過度に干渉せず、自主・自由・独立を大切にしつつ歩んでいます。

名古屋東教会は南山教会の村山盛芳教師が代務者となり、南山教会と名古屋東教会のつながりによって歩んでいます。同信会の交わりの中で、一番小さな群れですが、それぞれの賜物を生かして、塩味の効いた働きを、中部地区で行っていきたいと思います。わたしたちのことを覚えてお祈り頂ければ幸いです。

■ 京都地区

柳井一郎（洛西教会）

3月11日 京都同信会送別会をおこないました。24人出席。

送別者 入治彦教師、入順子教師、今井牧夫教師、森岡高康教師、小崎眞教師。

入順子先生の退任に伴い、後任地区委員を選任しました。

小笠原純先生、地区委員に就任されました。

京都地区委員は、井上勇一教師、平山正道教師、小笠原純教師、柳井一郎です。

関西同信会、京都地区、大阪地区、兵庫地区、3地区合同例会を4月28日室町教会でおこないました。45人出席。

講師 同志社大学神学部教員

勝又悦子先生

神学部「地の塩」プロジェクトを通して学んでいること

教師異動報告は本誌別項をご覧ください。

■ 大阪地区

尾島信之（南大阪教会）

せっかくの地区報告のコーナーを大阪のためにも割いて下さいましたが、前回のニューズレター発行以後、例会等は開催されていません。7月に予定されている例会については、次回ご報告いたします。

世話人は、戸根裕士さん（蒲生教会）、三浦遙さん（鳳教会）、山下壮起さん（阿倍野教会）、山崎道子さん（豊中教会／人事委員）、尾島信之（地区委員／人事委員）が引き続き担っています。

■ 兵庫地区

新堀真之（甲東教会）

兵庫同信会は年3回の頻度で開催され、毎回20名強が出席しています。3月3日（月）に行われた例会では、相澤弘典さん（頌栄保育学院理事長・院長）が、学院の置かれた現況を報告してくださいました。5月12日（月）の例会では、地区内で代務者を置く教会が増えている現状や、兵庫教区で互助制度の見直しが課題となっていることを受け、これからの宣教のあり方について活発な意見が交わされました。2024年度途中から現在に至るまでに、芦屋浜教会、神戸雲内教会、仁川教会、東灘教会、三木志染教会、頌栄保育学院で教師の異動があり、送別と歓迎の時が持たれています。

兵庫地区内での特記事項は以下の通りです。

2025年度は、神戸女学院（理事長・院長：飯謙さん、学長：中野敬一さん、チャプレン：大澤香さん）、および摂津三田教会（主任担任：久保田愛策さん）が150周年を迎えられます。また昨年に150周年記念行事を終えられた神戸教会（代務者：山本一さん／担任：大垣友行さん）では、6月28日（土）に岩井健作教師（第12代・3/31ご召天）の記念礼拝が献げられ、150名を超える出席者が集いました。

兵庫教区では、第79回（「合同」後56回）教区定期総会が5月18日（日）～19日（月）にかけて行われ、議長に森なおさん（加古川東教会）、書記に榊田翔希さん（尼崎教会・2期目）が選任されています。副議長は小栗献さん（神戸聖愛教会）です。重責を担ってくださっている三役のお働きを、兵庫同信会としてお支えしたいと思います。

■ 中国地区

中井大介（倉敷教会）

中国同信伝道会は教団の東中国教区と西中国教区とにまたがる中国地方5県に派遣された教師のつながりの中で活動しています。2024年度は特に同信会としての集まりを催すことはありませんでしたが、2026年度に予定

されている西日本同信伝道会のホスト役があるために今年度は計画をしていこうと考えています。それぞれの教会が高齢化していくなかで無牧の教会を地域のつながりで支えて行かなければならない課題が増えています。また、教職の心と体の健康を整えていくための配慮も必要となっています。だれも孤立しないような牧会的配慮を地域において大切にしていくために、今年度は少しずつ交流のときを増やしていきたいと願っています。これからも中国同信伝道会のためにお祈りいただければ幸いです。

■ 四国地区

木谷 誠（今治教会）

四国同信伝道会総会

2024年5月16日

1. 報告

活動報告

会長 木谷 誠 書記 長谷川義

会計 辻村佳子

2024年度定期総会

日 時：2024年6月21日（金）

開会18時30分～閉会19時55分

場 所：リモート

出席者：木谷 誠、上島一高、長谷川 義、
堀川賢二、松谷真理、辻村佳子、
成田信義（以上、敬称略）

秋の研修会

日 時：2024年10月16日（水）～10月17日（木）

会 場：土佐教会 清和中高

参 加：6名

土佐教会にて礼拝。翌日、清和中高の朝の礼拝出席。その後小西校長のお話を伺い、学内見学。募集を停止し、閉校への準備を行なっているが、ひと時ひと時を愛しみつつ、歩みを続けている様子、生徒を大切に環境を教育を整えている様子に深い感銘を受けた。四国同信会としても閉校への歩みに寄り添っていききたい。

2025年度総会

日 時：2025年5月16日（金）

場 所：松山教会

出 席：6名

役員改選

会長 木谷 誠 書記 長谷川 義

会計 辻村佳子

全国同信伝道会代議員 木谷 誠

2025年度活動計画

神学協議会 8月25日－26日

ミッションボードとキリスト教主義学校をメインテーマとしながら教会のことに触れさせていただく。講師として中野敬一氏をお願いし、9月9日に行うこととした。

閉校へと向かっている聖話女子中高の活動に寄り添い、協力したい。また松山学院、東雲学園の活動にも協力し、旅費などの補助を行う。

■ 九州・沖縄地区

松崎 豊（福岡弥生教会）

九州同信伝道会は、5月の九州教区総会に合わせて福岡警固教会で開催しました。

今年も教師と信徒が共に食卓を囲み、近況を報告し合いながら交わりの時を持ちました。今回は、4月から西南学院大学神学部でリカレント生として学んでおられる今井牧夫教師や折尾愛真短期大学教員の楊周漢先生もご参加下さり親睦を深めることが出来ました。また、九州教区総会では三役選挙が行われ副議長に矢崎和彦教師（福岡城東橋教会）が再選されましたが、教区議長と教区書記も一緒に会に来られご挨拶下さいました。

九州同信伝道会には、教師も信徒も同信会に関係する様々な方々が集まれる場となっています。広域地区の九州では、互いに助け合い支え合わなければ宣教を担うことは困難です。これからは教師・信徒間の結びつきを深め協力関係を築くために、このような同信会の機会を大切にして行きたいと思います。

2024年度 全国同信伝道会神学教育後援会寄付者芳名 (敬称略)

(2024年4月1日～2025年3月31日)

※ ○内数字は寄付回数 お1人(団体)数回のご寄付も1口に

※ 地区の記載は寄付金振込み時の住所による

【北海道】

計	7口	64,000円
旭川六条教会		5,000
石川まなか		5,000
石川宣道②		10,000
大島義浩②		4,000
札幌北光教会		30,000
月寒教会		5,000
匿名希望②		5,000

【奥羽・東北】

(青森・岩手・秋田・宮城・福島・山形)

計	6口	28,000円
五所川原教会		5,000
小林休		5,000
仙台北教会		5,000
鳴子教会		5,000
水沢教会		3,000
村上教会		5,000

【関東】

(新潟・群馬・栃木・茨城・埼玉)

計	23口	172,000円
朝日研一朗		5,000
安中教会		20,000
石田透・貴代		5,000
上原秀樹		2,000
大宮教会		5,000
鹿島教会		10,000
川上清樹		10,000
川上純平		10,000
川上清樹		10,000
川上盾		5,000
甘楽教会		5,000
阪口吉弘②		8,000
高崎教会		5,000
高橋津賀子		3,000
十日町教会		5,000

新潟教会		10,000
沼田教会		10,000
深谷教会		5,000
福本光夫・正美②		20,000
水戸教会		3,000
緑野教会		3,000
宮内常喜		3,000
匿名希望		10,000

【東京・神奈川・千葉】

計	28口	803,000円
市川三本松教会		10,000
江古田教会		5,000
北村裕樹		5,000
木戸定		5,000
倉地七重		3,000
小林茂		5,000
新生教会		10,000
代官山教会		2,000
千葉教会		20,000
東京山手教会		30,000
東京府中教会		3,000
徳田信		5,000
土橋晃		5,000
豊沢教会		10,000
西岡裕芳		5,000
原宿教会		300,000
藤崎義宣		5,000
藤原佐和子		5,000
牧田友香		5,000
翠ヶ丘教会		10,000
三宅規之		3,000
武蔵野扶桑教会		4,000
武蔵野緑教会		10,000
望月大吾		3,000
紅葉坂教会		20,000
弓町本郷教会		5,000
代々木教会②		10,000
霊南坂教会		300,000

【東海・中部・北陸】

(長野・山梨・静岡・富山・石川・福井・愛知・岐阜・三重)

計	15口	124,000円
愛知教会		50,000
稲垣壬午		10,000
各務原教会		5,000
軽井沢追分教会		5,000
坂下教会		3,000
田瀬教会		5,000
中部教区三重地区婦人部		5,000
付知教会		3,000
敦賀教会		5,000
東海教会		3,000
床次隆志		5,000
名古屋中央教会		10,000
名古屋東教会		3,000
南山教会		10,000
匿名希望		2,000

【京都・滋賀】

計	51口	516,800円
赤松信哉		5,000
秋田まち子		3,000
池田令子		5,000
石若義雄②		10,000
今井牧夫		5,000
宇治教会		12,000
鴨東教会		5,000
近江八幡教会		20,000
大下真弓		3,000
大津教会②		15,000
小笠原純		5,000
桂教会②		28,500
賀茂教会		15,000
岸本兵一		5,000
君村千代子		10,000
京都教会		30,000
京都葵教会		10,000

八頭教会	5,000
柳井トメ代	10,000
横野朝彦	3,000
横山順一	5,000
匿名希望	1,000

【四国】

(愛媛・香川・徳島・高知)

計 6口	110,000円
今治教会	20,000
伊予小松教会	5,000
上島一高	10,000
小西二巳夫	5,000
土佐教会	5,000
松山教会④	65,000

【九州】

計 11口	115,000円
浅野直人	10,000
池内裕	30,000
内山強	5,000
熊本草葉町教会	25,000
小倉日明教会	2,000
張宇成②	10,000
西八條敬洪	5,000
福岡警固教会	10,000
福岡弥生教会	5,000
森嶋道	3,000
弥生幼稚園	10,000

【海外・その他】 ※住所不明を含む

計 2口	15,000円
オオハシクニカズ	5,000
クドウモトイ	10,000

合計 242口 4,848,987円

【海外・その他】の方で、お名前前の漢字と地区をお知らせいただける方がありましたら、神学教育後援会のメールアドレスもしくは担当の山崎道子（豊中教会）までご連絡ください。

2024年度 全国同信伝道会神学教育後援会寄付金地区別表

(2024年4月1日～2025年3月31日)

地区	2022年度決算		2023年度決算		2024年度決算		2025年度予算
	口数	金額(円)	口数	金額(円)	口数	金額(円)	金額(円)
北海道	5	27,500	7	59,540	7	64,000	100,000
奥羽・東北	6	46,000	4	28,000	6	28,000	100,000
関東	23	177,000	23	164,000	23	172,000	250,000
東京・神奈川・千葉	32	901,000	24	792,797	28	803,000	950,000
東海・中部・北陸	16	329,000	17	183,000	15	124,000	300,000
京都・滋賀	53	547,900	55	555,000	51	516,800	700,000
大阪・奈良・和歌山	38	394,250	37	410,650	34	2,377,265	550,000
兵庫	30	352,000	29	333,000	37	369,660	500,000
東・西中国	22	110,000	20	121,000	20	154,262	200,000
四国	9	105,000	8	135,000	6	110,000	200,000
九州・沖縄	13	112,000	11	97,000	11	115,000	150,000
その他					2	15,000	
合計	247	3,101,650	235	2,878,987	240	4,848,987	4,000,000

2024年度 全国同信伝道会神学教育後援会 会計報告

(会計年度 自2024年4月1日～至2025年3月31日)

収入の部

(単位：円)

	2023年度決算	2024年度予算	2024年度決算	予算比	2025年度予算
前年度繰越金	3,360,363	2,731,227	2,731,227	100%	4,376,766
寄付金	2,878,987	4,000,000	4,848,987	121%	4,000,000
特別献金	50,000	50,000	50,000	100%	50,000
同信会会計より繰入れ					
雑収入	19	20	296	1480%	3,000
合計	6,289,369	6,781,247	7,630,510	113%	8,429,766

支出の部

(単位：円)

	2023年度決算	2024年度予算	2024年度決算	予算比	2025年度予算
海外留学生奨学金	360,000	360,000	360,000	100%	360,000
神学生奨学金	480,000	720,000	600,000	83%	720,000
赴任時奨学金	600,000	800,000	800,000	100%	800,000
神学部への寄付	50,000	30,000	30,000	100%	30,000
神学研修講座補助金	100,000	100,000	100,000	100%	100,000
神学協議会補助金	400,000	0	0		400,000
献身キャンプ(東・西)補助金	400,000	400,000	400,000	100%	400,000
予餞会補助	100,000	50,000	50,000	100%	50,000
募金事務費	121,153	150,000	145,400	97%	150,000
印刷費	0	10,000	0	0%	20,000
郵送費	254,502	350,000	247,385	71%	350,000
雑費	52,487	60,000	50,959	85%	60,000
予備費	0	2,731,247	0	0%	4,289,766
神学生緊急支援金	300,000	300,000	0	0%	100,000
派遣神学生支援金	340,000	720,000	470,000	65%	600,000
次年度繰越金	2,731,227		4,376,766		
合計	6,289,369	6,781,247	7,630,510	113%	8,429,766

海外留学生奨学金：奨学金(12万円×3名)支出 ※募集は3名
 神学生奨学金：奨学金(12万円×5名)支出 ※募集は7名
 派遣神学生教育支援金：支援金(1ヵ月1万円×12ヵ月×3教会、×11ヵ月×1教会)
 神学生緊急支援金：奨学金(10万円) ※募集は3名
 赴任時奨学金：奨学金(20万円)×4名 ※対象者全員支給
 献身キャンプ補助金：西日本キャンプ(15万円)、東日本キャンプ(25万円)
 募金事務費：振替料金、領収書・名簿整理費、事務局経費、会計事務謝礼
 郵送費：ニュースレターNo.25・No.26郵送費、宛名ラベル代
 雑費：奨学金授与式昼食代、委員会費

《収入》2024年度も寄付金にご協力いただき感謝いたします。本年度は大口の献金がささげられことにより、寄付金総額は目標の400万円を達成することができました。ただ、それがなければ昨年同様に300万円を下回る額となるため、今後のことを考えるとかなり危機感を抱いています。各教会・伝道所の財政力低下や、寄付者の方々の高齢化も影響していると思われませんが、神学生の学びを支援する働きを縮小することなく継続できるよう、より広く多くの皆さまにお支えいただけるよう、寄付金のお願いに力を注ぎたいと考えています。

2025年度は同志社創立150年にあたります。将来の宣教を担う次世代の育成のためにも、寄付金へのいっそうのご協力をお願いいたします。

《支出》2024年度も、神学生を対象とした各種奨学金事業を行い、希望する学生全員に支給することができました。牧会志望者の減少により各種奨学金の支出が減少しているのは寂しいことですが、神学生と教会を側面から支援する「派遣神学生教育支援金」が2年目を迎え、活用されていることは喜ばしいことです。神学部との連携のもとで創設された「神学生緊急支援金」は今年度は申請がありませんでしたが、緊急支援が必要な学生を支えるための備えとして継続していきます。

2025年度は神学協議会開催年にあたり、運営ための補助として40万円を支出する予定です。

全国同信伝道会会計2024年度決算及び2025年度予算

(自2024年4月1日～至2025年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算
前年度繰越金	3,122,235	3,122,235	3,226,754
分担金	900,000	1,056,909	900,000
会費	400,000	468,110	450,000
感謝献金	400,000	488,000	450,000
クリスマス献金	50,000	101,000	100,000
東京同信伝道会分担金	250,000	250,000	250,000
会衆主義パンフレット	5,000	1,404	5,000
招聘ハンドブック	15,000	173,000	50,000
受取利息	10	370	2,000
合 計	5,142,245	5,661,028	5,433,754

支出の部

単位：円

科 目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算
人事委員会費	150,000	222,967	200,000
問安費	150,000	251,744	200,000
事務通信費	40,000	66,314	70,000
慶弔費	50,000	6,160	30,000
合同委員会（6月）	450,000	404,436	450,000
合同委員会（8月）	0	0	100,000
合同委員会（11月）	450,000	468,868	450,000
財務委員会費	50,000	50,000	50,000
教職養成部門委員会費	100,000	100,000	100,000
ネットワーク部門委員会費	50,000	50,000	50,000
ニュースレター印刷費	300,000	283,140	300,000
会衆主義教会研究会費	400,000	322,780	400,000
ホームページ	100,000	7,865	60,000
代議員会費	0	0	150,000
補助金	100,000	100,000	300,000
予備費	2,752,245	0	2,523,754
次年度繰越金	0	3,226,754	0
合 計	5,142,245	5,661,028	5,433,754

✿ 教師異動報告 ✿

北海道地区

- 杉本和道教師 真駒内教会主任担任教師が札幌北部教会代務者辞任。
- 島田 直教師 霊南坂教会担任教師から札幌北部教会主任担任教師就任。
- 金澤友幸教師 岩内教会主任担任教師から苫小牧弥生教会主任担任教師就任。
- 葛井義顕教師 倉吉上井教会主任担任教師から岩内教会主任担任教師就任。
- 稲垣真実教師 吾妻教会主任担任教師から渡島福島教会、江差伝道所主任担任教師就任。
- 山本光一教師 旭川六条教会主任担任教師就任。

東北地区

- 近藤 誠教師 仙台北教会主任担任教師が仙台東教会代務者辞任。
- 佐々木玲哉教師 岡山教会担任教師から仙台東教会主任担任教師就任。

関東地区

- 川上純平教師 大田八幡教会主任担任教師から会津若松教会主任担任教師就任。
- 森岡高康教師 彦根教会主任担任教師から足利教会主任担任教師就任。
- 三浦 啓教師 桐生東部教会主任担任教師が吾妻教会代務者就任。

東京地区

- 原 牧人教師 豊澤教会主任担任教師が東京府中教会代務者辞任。
- 本間優太教師 神戸雲内教会主任担任教師から東京府中教会主任担任教師就任。
- 徳田 信教師 フェリス女学院大学非常勤講師から蒲田教会主任担任教師就任。
- 大澤星一教師 西大和教会主任担任教師から中目黒教会主任担任教師就任。
- 矢吹大吾教師 市川三本松教会担任教師が新生教会代務者就任。

- 森下 耕教師 愛和病院牧師から八王子教会主任担任教師就任。
- 井殿 準教師 翠ヶ丘教会主任担任教師が浄風教会代務者就任。
- 古賀 博教師 早稲田教会主任担任教師が江古田教会代務者就任。
- 椿 克也教師 新卒で霊南坂教会担任教師就任。

東海地区

- 大塚 椋教師 新卒で南山教会信徒伝道者就任。

京都地区

- 塚本潤一教師 芦屋浜教会主任担任教師から京都教会代務者就任。
- 井殿 謙教師 原宿担任教師から京都教会担任教師就任。
- 馬場詩織教師 名古屋東教会主任担任教師から京北教会主任担任教師就任。
- 吉田 慈教師 天城教会、琴浦教会主任担任教師から彦根教会主任担任教師就任。
- 梅田玲奈教師 洛西教会担任教師就任。広島女学院教務教師から松蔭高等学校教務教師就任。
- 平山正道教師 大津教会主任担任教師が安曇川伝道所代務者就任。
- 榎本 恵教師 甲西伝道所代務者就任。
- 水島祥子教師 頌栄保育学院教務教師から無任所教師に。
- 杉田俊介教師 仁川教会主任担任教師から同志社大学神学部教務教師就任。

大阪地区

- 望月麻生教師 足利教会主任担任教師から西大和教会主任担任教師就任。
- 森田喜基教師 同志社大学キリスト教文化センター教務教師が高の原教会代務者就任。

- 水谷 憲教師 久宝教会担任教師から大阪淡路教会主任担任教師就任。
- 春名康範教師 大阪チャーチ教会主任担任教師就任。
- 小崎 眞教師 同志社女子大学教務教師から梅花学園学園長就任。
- 関谷共美教師 南大阪教会担任教師辞任。

兵庫地区

- 入 治彦教師 京都教会主任担任教師から三木志染教会主任担任教師就任。
- 入 順子教師 京都教会担任教師から三木志染教会担任教師就任。
- 村上茂樹教師 淀川キリスト教病院教師から芦屋浜教会主任担任教師就任。
- 相澤弘典教師 頌栄保育専門学校教務教師が神戸雲内教会代務者就任。
- 栗原宏介教師 岡本教会主任担任教師が東灘教会代務者就任。
- 杉田俊介教師 仁川教会主任担任教師から仁川教会代務者就任。

中国地区

- 床次隆志教師 南豊中教会担任教師から天城教会主任担任教師就任、琴浦教会代務者就任。
- 足立こずえ教師 広島主城教会主任担任教師から長門教会主任担任教師就任、美祢教会代務者就任。

- 塩見和樹教師 広島観音町教会主任担任教師が広島主城教会代務者就任。
- 加藤俊英教師 小月教師代務者から小月教会兼務主任担任教師就任。
- 小家石真歩教師 広島女学院中学高等学校教務教師就任。
- 藤田和也教師 新卒で岡山教会担任教師就任。

九州地区

- 矢崎和彦教師 福岡城東橋教会主任担任教師が大牟田正山町教会代務者就任。
- 今井牧夫教師 京北教会主任担任教師から無任所教師に。

主の祝福をお祈りいたします。

隠退教師

- 五味 一教師 無任所教師から隠退。
- 井石 彰教師 苫小牧弥生教会主任担任教師から隠退。
- 望月修治教師 東灘教会代務者から隠退。
- 中井利浩教師 江古田教会主任担任教師から隠退。
- 奈良いずみ教師 京都上桂伝道所主任担任教師から隠退。

主の労いをお祈りいたします。

✧ 召天者報告 ✧

小暮光司教師 2025年2月28日 召天 93歳
1957年 同志社大学院修了
紫野教会、坂祝教会、各務原教会、玉島教会、京北教会、東灘教会で伝道牧会されました。

棚谷直巳教師 2025年3月28日 召天 63歳
1985年 同志社大学卒業
西小倉めぐみ教会で伝道牧会されました。

岩井健作教師 2025年3月31日 召天 91歳
1958年 同志社大学院修了
広島流川教会、呉山手教会、岩国教会、神戸教会、明治学院教会で伝道牧会されました。

ご遺族、ご関係者の上に主のお慰めをお祈りいたします。

『天上の友』第五編出版の募金のお願い

2025年7月25日
全国同信伝道会常任委員会
委員長 菅根 信彦

この度、全国同信伝道会では、会衆主義教会の伝統と精神を受け継ぐ諸教会・伝道所をはじめキリスト教関係学校や関係施設・諸団体に仕え、その生涯をささげた教師、また、その働きに準ずる方々の足跡と働きを記録する『天上の友』第五編を発行することにいたしました。

これまで『天上の友』は、1915年に第一編、1933年に第二編、1988年に第三編、さらに、2014年に第四編が発刊され、今回の第五編は10年ぶりの発刊となります。この間に、130名以上の教師や働き人が天に召されました。その尊い生涯を心に刻みながら、その背後で働いた主の業を覚えたいと思います。さらに、主の招きに応え「地の塩」「世の光」として歩まれた方々の名前と働きを覚えることは、次に続く方々の豊かな道標になるかと思えます。

今回の第五編の編集責任は上林順一郎先生に、編集実務は東京同信会の先生方をお願いしています。現在、順次執筆原稿も集まっています。2025年8月下旬に開催予定の「神学協議会」に合わせてお手元に届くようにと順調に作業が進んでいます。

つきましては、今回の『天上の友』第五編出版のために、下記の要領で募金を行うことを決めました。趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。皆様のお働きの上に主の祝福をお祈りいたします。

■ ■ ■ 募金要領 ■ ■ ■

- 募金目標額 200万円（キリスト教新聞社より1000部発行予定）

- 募 金 額 一口 3,000円
できれば複数口でお願いいたします。一冊贈呈いたします。

- 募 金 口 座 全国同信伝道会の郵便口座をご利用ください。
全国同信伝道会 口座番号 01050-0-54975

